

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691200212		
法人名	社会福祉法人 京都悠仁福祉会		
事業所名	グループホームヴィラ鳳凰(あおい)		
所在地	京都府宇治市宇治里尻36番35		
自己評価作成日	令和4年3月12日	評価結果市町村受理日	令和4年6月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に特養、ショートステイ、デイサービス、居宅介護支援事業所、認知症対応型デイサービス、クリニック、訪問看護、訪問介護、認知症カフェを併設しており、認知症の初期から看取りまで支援ができる体制を整えている。
併設のクリニックと連携し、居宅療養管理指導を月2回実施しており、訪問診療以外でも連携を行うことで、安心したサービス提供に努めている。
事業所内での余暇活動では、制作活動や行事を通じて季節を感じてもらえる行事の実施に力を入れている。また、新型コロナウイルスの影響によりご家族との面会ができないことが多く、LINE電話を活用した面会や、ホームページのブログをこまめに更新する事で、ご家族に安心してもらえるよう取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2691200212-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都府京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1F		
訪問調査日	令和4年4月14日		

京都認知症総合センターは11の事業所が相互の連携により、利用者の状態にあった医療、介護サービスを提供しています。グループホームヴィラ鳳凰は「認知症の方の出来る能力を引き出し、自立した生活が送れるよう支援する。」と表明し、利用者それぞれの「強み」を発見して、今迄できなかった事も共同生活の中で職員の支援により、調理や清掃など日々の生活能力が発揮でき生き生きと生活されています。加えて、介護計画に利用者の楽しみごとの計画を掲げています。隣接してグループの病院があることや特別養護老人ホームが併設されていることで、家族・利用者には看取りをしないことを説明して理解を得ています。看護師は併設クリニックとの医療連携で毎日の巡回や月3回の夜間勤務、24時間オンコール体制で安心感が得られています。施設周辺散歩は日常におこなわれ、出かけられない時は職員が付き添いベランダを10周される利用者もおられ、下肢筋力低下を防いでいます。コロナウイルス感染症の宣言等の解除後直ぐに外出行事を企画され、職員の速やかな行動で商店街の散策や紅葉狩りなど利用者の楽しみを表現させています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲示し、職員間で理念の共有を図っている。	ヴィラ鳳凰の理念を「私たちは、利用者様が悠々と心穏やかに、ゆったりと過ごして頂けるように、尊敬と思いやりの心を持って支援します。」とし、中央の玄関に掲示すると共に、毎月の会議で唱和することで、職員への浸透を図っている。職員が利用者と穏やかに関わられている姿から、理念通りの支援の実施が感じられた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響により、地域行事の中止や外出を控えており、事業所内の食事行事や季節行事を工夫している。	コロナ禍までは地域の情報を得て、地域の行事に参加したり、保育所とも交流していた。また、認知症カフェのプログラムに参加した時もあった。今では、地域の散策や近隣への買い物は続け、コロナウイルス感染症宣言等の解除になれば直ぐに宇治橋商店街への買い物や(歴史公園)に行き楽しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームだけでなく、法人全体で認知症カフェの取り組みを実施し、地域住民にも参加してもらっている。また、地域の介護保険事業所や市民向けの研修を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回(うち2回は認知症対応型通所介護と合同)開催している。今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、書面開催もあり。	運営推進会議は2021年度は対面開催が2回と書面開催を4回おこなっている。事前にメンバーに資料と意見書を同封して送付し、送られてきた意見を含めて議事録を作成して再度メンバーに送付している。そして、全家族にも資料とともに議事録を送付している。議題は①入居状況②余暇活動③ヒヤリハット・事故報告④報告事項⑤その他、としている。「カルタをして欲しい」と家族からの意見を反映して「カルタをしている様子」をブログにのせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者は運営推進会議に出席しており、議事録も提出し報告している。また、介護相談員の訪問も新型コロナウイルス感染予防のため、書面にて行っている。	行政の担当課は運営推進会議のメンバーであり、情報や意見を貰っている。また、認知症総合センター会議で管理者は交流する等、協力関係が築けている。グループホーム連絡会は年1回開催されていたが、コロナ禍で中止になっている。介護相談員は宇治市の方針でコロナ禍になってからは書面でのやりとりになり、事業所は入居者の様子を書いて送り介護相談員から、もらった書面は利用者に披露して喜ばれている。	

京都府 グループホームヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	教育訓練計画書を作成し、施設全体で研修を開催している。身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を3ヶ月に1回開催しており、身体拘束の事例はない。	センター全体で、身体拘束適正化のための支援を検討する委員会を3ヶ月毎にメンバーや検討事項を決めて開催し、話し合ったことをユニット会議で報告している。また、年2回の研修も実施し、研修受講後に(欠席者には資料を渡し)全員がレポートを提出している。利用者には優しい言葉がけをするように気を付けて、理念に沿ったケアが出来るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	教育訓練計画書を作成し、施設全体で研修を開催している。事例があればグループホーム会議で検討することとしており、虐待の事例はない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	教育訓練計画書を作成し、施設全体で研修を開催している。入居者の中には、生前契約等決済機構を活用されている方もあり、面会を通じて繋がりを作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書について説明し、契約を締結している。また、記載内容に変更等あれば、その都度説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や請求書にご意見はがきを同封し、意見・要望等が言いやすい環境を整えている。また、満足度アンケートを年1回実施し、その意見を改善に繋げている。	意見箱の設置やご意見はがきを2か月毎に送り、家族からは感謝の言葉が返ってきている。電話では個人的なことを相談されることが多い。法人が家族と利用者それぞれにアンケートをとり、結果は集計・分析して家族に返し、ホームページで公表している。利用者からは聞き取りでおこない「風呂は夜に入りたい」と意見が出て希望に添えるように検討中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は必要な会議に出席し、意見を述べ指示を出している。また、「京都府福祉職場 組織活性化プログラム」を活用し職員の職場に対する思いを見える化しており、所属長ヒヤリングや所属長による年2回の面談を実施している。	ユニット会議や所属長ヒヤリング(年2回)と人事考課の面談を2回おこない、職員アンケートは京都府福祉職場組織活性化プログラムを活用して、職員の職場や仕事に対する思いを見える化している。職員からは利用者の夜の入浴希望に応える勤務体制の提案がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場づくりとして人事考課制度を導入している。また、資格取得の際の研修費負担など向上心を持って働けるよう支援している。		

京都府 グループホームヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育訓練計画書を作成し、定期的に研修を実施している。新たに採用した職員は、プリセプターシップ制度を実施し、早期に職場になれるように、個々のレベルに合わせ指導している。また、能力評価を活用し力量を把握している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村が主催するグループホーム連絡会に参加し、他事業所の職員と交流や意見交換しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響により開催なし。		
I. 理念に基づく運営					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人の不安や思い、意向を取り入れたケアプラン作成や、入居前の情報や本人の様子、状態について職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に家族等の不安や思い、意向を聞き、概ね3ヶ月に1回モニタリングを実施している。新型コロナウイルス感染予防のため電話にて開催している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に入居前の情報や本人の様子、状態等を把握し、本人が環境に慣れ不安なく生活ができるサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向や思いを聞き、職員本位で決定せず、本人が選択できる言葉掛けや環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支えられる一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	モニタリングやサービス担当者会議、普段の会話から馴染みの場所や好きだった食べ物などを聞き取り、行事等を提案している。また、医療面においても、家族と共に支えあう関係を構築している。		

京都府 グループホームヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居しても以前より交流がある方と面会の機会を設けたり、家族との外出も気兼ねなくできるよう努めているが、現在新型コロナウイルスの影響により面会制限を実施しており、今年度は実施できていない。	入居前の面接で本人・家族に馴染みの関係を聞き面接票に記録し、生活の中で利用者の話から把握したことはケース記録に記入して、職員間で共有している。コロナ禍までは以前から交流のある方が、面会に来られたり、家族がお墓や馴染みの散髪屋に連れていかれていた方もあった。携帯を使っている人はメールや電話で関係を継続できている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段から共用空間で過ごされる方が多く、同じテレビを観たり、歌を歌ったり、制作活動等をして過ごされてる。 また、食事の調理、配膳、下膳、食器洗いなども協力されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、特養に入所した方があり、カンファレンスの参加、関係職員に情報の共有を行っている。 また、職員間で情報共有し、スムーズにサービス提供できるよう努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングやサービス担当者会議で希望や意向確認している。入浴時間や衣類選択等、本人の意見を尊重している。 また、誕生日は献立のリクエストを聞き、楽しみの充実を図っている。	入居前の面接で思いや意向を聞き取り面接票に記入し、日常生活の中で聞いたことはケース記録に残し、モニタリングやサービス担当者会議で確認をしている。本人が選択できる言葉かけをおこなったり、就寝時間は本人の生活リズムに合わせた声掛けをするなど、本人の意向を尊重している。意思表示のできない利用者には表情やサインを見逃さないようにするとともに、家族にも聞き、本人の気持ちに添えるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を基に環境整備に努めている。就寝時間など、本人の生活リズムに合わせた声掛けや、食事の嗜好や習慣等も入居前に聞き取りしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントを実施し、本人の能力を把握し、職員で情報共有のうえ、家事等を依頼している。 また、必要に応じて職員間での共通、カンファレンスを行なっている。		

京都府 グループホームヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ね3ヶ月に一回モニタリングを実施し、本人、家族の意見をもとに、可能な限り意向に添ったケアや支援に努めている。	入居前の面接で聞きとったことや医療情報、在宅時のケアマネジャーからの情報は「面接表」に記入してサービス担当者会議をおこない初回の計画書を作成している。利用者・家族からは事前に意向を聞いておき、1ヶ月後にモニタリングをおこない本プランを作成している。その後は3ヶ月毎にモニタリングをおこなっている。介護計画は、最長で1年、変化があれば随時見直している。見直し前にはサービス担当者会議を計画作成者・看護職員・介護職員でおこない、再アセスメントをとっている。コロナ禍までは家族に同席してもらっていたが、今は電話で意向を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を残し、必要に応じて申し送りしており、カンファレンスを開催している。グループホーム会議やユニット会議でも共有、実践に繋げており、モニタリング時に提案し、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安全に生活できるよう靴や歩行器等の介護用品の提案している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は、新型コロナウイルスの影響により、地域行事の中止や外出を控えている。感染状況が落ち着き、外出が可能となった際は、買い物や本人の希望に添った支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所内での訪問診療だけでなく、かかりつけ医の継続、本人の希望に沿った支援に努めている。 また、併設のクリニックと医療連携を行い、日々の健康管理もやっている。	入居時に今迄のかかりつけ医の継続が出来ることを説明するが、ほとんどの方が併設の京都認知症総合センタークリニックにかかりつけ医を変更されている。併設クリニックの医師は月2回訪問診療があり、毎日併設クリニックの看護師が巡回している。看護師は月3回夜勤に入り、24時間オンコール体制なので、利用者、職員にとっても安心な日々が過ごせている。コロナ禍のため訪問歯科が受けられていないが、必要に応じて協力医療機関である宇治武田病院の口腔外科を受診している。皮膚科も同病院に職員付き添いで受診している。	

京都府 グループホームヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のクリニックと連携し、健康状態の把握や相談できる体制を整えている。 また、看護師が夜勤することで、介護職と看護職の連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった場合は、家人や医療機関と連携しており、入院中も医療機関と連携し状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行わない方針である。 法人全体の事業所と連携し、協力できるように取り組んでおり、入居時に方針を伝え安心して生活できるよう努めている。	重要事項説明書に「重度化した場合における対応に係る指針」を定め、医療機関との連携体制、看取りに対する考え方等明確に表明している。法人内に特別養護老人ホームがあり、武田病院グループとして病院が複数あるためその強みを活かして重度化された場合は、その方の状態にあった施設を提案するようにしている。入居時に利用者・家族には説明をして安心してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	教育訓練計画書を作成し、施設全体で研修を開催している。 また、緊急時の対応について学ぶ機会として、普通救命講習を開催しているが、今年度は開催なし。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害対応訓練(年1回)及び避難訓練(年2回)を開催し、訓練終了後は防災教育を実施している。	総合センター合同で昼夜想定火災訓練、水害、感染症、合計4回の訓練をおこなっている。火災訓練では初期消火、避難誘導をし利用者も参加しペランダに行く訓練をおこなっている。認知症カフェに來られた地域の方も一緒に参加している。コロナ禍で消防署の立ち合いはない。訓練終了後に消火器の使用方法や消防設備について職員教育をおこなっている。備蓄は食料、水、テープ式リハビリパンツやパット等、十分に準備している。施設は浸水想定区域にあるため、万一の水害を想定し上層階に避難誘導するよう職員に周知し訓練をおこなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	教育訓練計画書を作成し、施設全体で研修を開催している。 また、本人の意思を尊重し、場所を変えて話をしたり、他者に聞こえない環境で話しかけるように努めている。	法人の全体研修「個人情報・プライバシー」「接遇」で職員は学んでいる。利用者には日頃から丁寧な声かけをするよう心掛けている。トイレ時の誘導で話しかける声の大きさ、ドアを開けっ放しにしないことや、入浴時は1対1の介助で出来ないところを介助するが少しだけ開けて見守っている。など利用者の尊厳とプライバシーを守ることに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意思決定できるような声かけを行い、目で見ても判断できる工夫等、関り方にも注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位で決定することなく、本人がどのように過ごしたいか等を考慮し、必要に応じてカンファレンス等を開催している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択ができるよう関りを持ち、家族にも協力依頼している。 また、定期的に理美容や毛染め等の希望がないか声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食献立を伝え、食べる楽しみを持ってもらえるように努めており、調理、配膳、下膳、食器洗いなど家事も一緒に行っている。 また、誕生日は献立のリクエストを聞き、楽しみの充実を図っている。	業者から届く食材を利用者と共に調理している。その方の能力を職員が見極め、本人ができるところまで下準備をして野菜を切ったり、炒めたりしてもらっている。しばらく料理をされていなかった方も腕を振るわれ、男性も配膳などに参加されるようになっている。お箸や茶碗は今まで使用されていたものを持って来てもらい、これまでの生活が継続できるよう心掛けている。レクリエーションとしておやつを作ったり、誕生日には食べたいものを聞き取り、職員が材料を買いに行き調理し、みんなでお祝いをしている。行事食はお弁当のメニューから好きなものを選び出前を取っているなど食べることを楽しめるように色々と工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取や水分量の管理、また、自室にいつでも飲めるお茶を毎日配膳する等、本人にあった支援を行っている。 必要に応じて、併設しているクリニックのSTへ嚙下等について相談できる体制を整えている。		

京都府 グループホームヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、必要時介助している。 必要な方は個別で歯科受診している。 また、口腔衛生管理指導を行い、ケアの指導も実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけや介助を行ない、記録に残し排泄状態を把握している。 また、便秘がある方は下剤を調整し、併設しているクリニックと連携している。	排泄記録を見て定期的に声がけし、できるだけ布パンツで過ごしていただけるようにしている。在宅時は尿臭が強かった方も時間をみてトイレ誘導することにより、失敗が減り、衣類の臭いがなくなった。看護師が毎日排泄状況を確認しているため、排便コントロールもうまくいっている。夜間にテープ式リハビリパンツを使用している方が一人おられる。ポータブルトイレを使用されている方はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整だけでなく、好みから水分摂取が出来るよう工夫している。 毎朝の体操や散歩等、運動の機会が持てるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にはバイタル測定を実施し、入浴の声かけにより、意向確認している。 また、入浴時間や回数の意向も確認している。	浴槽は左右に台がありどちらからでも利用者に合わせて入りやすく、介助もしやすくなっている。湯は一人ずつ入れ替え気持ちよく入れ、シャンプーとボディシャンプーは用意されているが、それぞれに好みのシャンプーを使用している方もおられる。柚子湯やしょうぶ湯の季節湯もおこない、懐かしく楽しい取り組みになっている。入浴後は一人ひとりに処方された保湿剤が用意され、(乾燥で粉をふく方もなく)きれいな肌をされている。入居当初は入浴拒否の方があったが、今は全員気持ちよく入られている。入浴回数も希望を聞き、週2回以上は入れるようにしている。利用者からの希望で、夜間の入浴も出来るように調整されている。同性介助も希望があれば対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休憩ができるよう声かけを実施し、生活リズムにも注意している。 空調管理や寝具も季節にあわせて支援している。		

京都府 グループホームヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療や受診時にかかりつけ医に相談している。処方の際には、薬の説明書を確認し理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	菜園で季節の野菜を育てたり、制作活動、歌等の楽しみが持てる工夫をしている。また、本人が生活歴を考慮し、個別に支援するよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に出かけたり、紅葉狩り等の季節を感じてもらえる行事を企画するよう努めている。	コロナ禍で規制が厳しい中、緊急事態宣言解除後すぐに外出行事を企画して、職員の速やかな行動により商店街の散策や紅葉狩りなど利用者の楽しみを実現させている。日用品の買い物も家族に頼んでいたものが職員と共にスーパーマーケットや本屋に出かけることができ、外の空気を味わうだけでなく、自分で気に入ったものを選ぶ楽しみも味わっている。施設周辺散歩は日常におこなわれている。出かけられないときは職員が付き添いペランダを10周される利用者もおられ、下肢筋力低下を防いでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の管理を行い、ご自身の物は一緒に買いに行けるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	テレビ電話や手紙のやり取りをしており、携帯電話を持参し、家族へメールや電話をしている方もあり。充電が切れないよう支援し、操作方法についても支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に掃除を一緒に実施し、空調管理など環境にも配慮している。また、テレビの音量にも注意し、他者も生活しやすいよう配慮している。	フロアは広く、ソファが複数テレビを囲むように置かれている。このことによりリビングダイニングに独立した空間が生まれている。定期的な換気と40畳対応の除菌脱臭機を使用し、きれいな空気環境を保っている。壁には利用者と共に制作した季節の壁面飾りが掲示されている。週に1回掃除の日を作り、利用者がそれぞれの能力に見合った道具(掃除機、モップなど)で、職員と共にフロアや居室、洗面台を掃除している。テラスには花壇があり、季節の野菜を植えてみんなで育てている。	

京都府 グループホームヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で一緒に作業したり、テレビを観たり、入居者同士の会話が生まれているように声かけし支援している。 また一人で過ごしたい方は、居室やリビングのソファで過ごしてもらうよう居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していたタンスやテレビ、写真などを持参してもらっている。	窓が大きく居室内は明るい。自宅で使用されていた整理タンス、ハンガーラック、テレビなどや家族の写真、アルバムなどを持ってこられている。アルバムは居室やリビングで懐かしそうに見ておられる。リネンはレンタルであるが毛布などは自分のものを使用され、居心地よく生活が出来るようにされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員と一緒にできることは声を掛けを実施し、環境を整えることで可能なことは、物品等の配置を工夫する等、本人に合った支援に努めている。		